

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( ~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム こもれび Bユニット	評価実施年月日	平成20年12月から平成21年1月31日
評価実施構成員氏名	高田 雅章 山田 理恵 梅澤 健太郎 鈴木 淳子 石黒 百合子 山口 彩 戸田 亮子 藤原 智子 吉野 かおる 柿原 悠子		
記録者氏名	高田 雅章 山田 理恵	記録年月日	平成21年1月31日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>その人らしい、生活が出来るように家庭的な雰囲気の中でその方の持っている力を最大限に引き出せるよう取り組んでいる。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>日々の申し送りや、カンファレンス・ミーティングの中で個人のケアについて話し、実践しながら取り組んでいる。</p>	○	<p>パンフレットを新しく作成するため理念を掲示し、訪問者や家族へわかるよう取組んでいきたい。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族への手紙やホーム便りを発行したり、運営推進会議や勉強会の際に、日常の様子や行事の話をしている。また、町内会の行事にも参加したりしている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近所の方々と挨拶を交わしたり、散歩に訪れることがある。また、グループホーム周辺の草刈を手伝ってくださったり、呼びかけにて勉強会への参加がある。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>老人クラブへ定期的に参加をしたり、町内会のお祭り・盆踊りにて、地域の方との交流を図りながら楽しんで参加をしている。近隣の小学校の「子ども110番」に加盟し、地域への貢献を行っている。また、毎月、近所の方がボランティアとしてホームに訪れ、利用者と一緒に昔の歌や民謡・詩吟などを楽しんだり、雑談をする機会があり、顔馴染みの関係となっている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議や勉強会を通じ、地域高齢者や家族が役に立てるような、情報の場として取り組み、いつでも相談できるよう心掛けている。ホームに出入りして下さっている地域の方から、困っていることの相談を受けることがあり、内容に応じた情報を提供する事があった。今後もそのような繋がりを大切にしながら、共に協力が出来るように関わりを持ち続けていきたい。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価や外部評価を通じて、今までの振り返りの機会ととらえ、項目に沿って確認を行っている。また、質の向上を目指し日々努力をしている。	○	自己評価の意義を職員一人ひとりが理解し、個人の振り返りの場として活用し、今後のサービス向上にいかして行きたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の場で、普段の様子や評価への取り組みをありのままに伝え、その機会を通じて再度、十分に認識を深め、ケアの質の向上に努めている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	職員の研修会に参加し、サービスの質の向上に努めている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	勉強会や運営推進会議にて、地域包括支援センターの方を招き、学ぶ機会を作っている。必要な方には制度を活用できるよう、職員がこれからも学ぶ意欲を持ち、今後活かしていけるよう、努力していきたい。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、理解を深めて今後の関わりに繋げていけるよう、努めていきたい。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	紙面上の情報のみならず、入院先や自宅・施設を訪問し、利用者や家族と十分に話し合いを行い、不安や疑問の解決に努め、理解を得られるよう、関わりを持つようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常の関わりの中から、利用者の意見を伺うとともに、ホームの玄関に“意見箱”を設置し、それを通じても意見を表現できる機会を作っている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	体調不良や突発的に受診が必要なときには、その状況に至った経過・結果とあわせてその都度電話やファックスにて報告を行っている。面会時には、利用者の近況や預かり金の使用状況・ケアプランの説明と承諾のサインをいただいている。また、毎月手紙や写真にて近況や報告や行事への家族参加の呼びかけ等も行っている。	○	職員の移動や行事などをお伝えすると共に、広報誌なども今後も継続して家族へと送っていきたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書に苦情・相談窓口について明記し、入所時に説明を行っている。また、玄関に意見箱を設置し、面会者の意見を伺う機会を作っている。その中に、以前職員宛の感謝のコメントが寄せられていたこともあった。要望や苦情が聞かれたときにはその原因を探り、振り返りをしながら速やかに対応できるように努力していきたい。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月管理職会議を行い、その結果を全職員に書面を通じて伝えている。意見や疑問点があれば、その都度管理者に報告し、話し合いを行ったり、会議の議題として提案し、意見反映に努めている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	受診や行事・家族の状況などにあわせ、利用者の負担にならないように、事前に職員の人数を配置したり、勤務時間の調整を職員と話し合いながら取り決め、柔軟な対応ができるよう心掛けている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者や職員の状態の応じてローテーションを組む場合は、必要最低限度に抑えられるように考え、利用者には掛かる影響が少ないように配慮をしている。また、やむを得ず異動や離職がある場合には、引継ぎをしっかりと行い、徐々に顔馴染みの関係が築けるよう、周りの職員もサポートしながら、配慮を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の経験や学びたいことなどに合わせて、あらかじめ予定を立て毎月、法人内で勉強会を開催している。また、定期的に外部のグループホームとの交換研修を行っており、自身の振り返りに繋がっている。研修後には報告書を提出するとともに、カンファレンスの場でユニットの職員に報告を行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後もホームのない勉強会を開催すると共に、医療面の勉強にも力を入れていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>定期的に行われる、札幌市や区の管理者連絡会議に出席し、地域の同業者との情報交換や交流を図っている。また、外部のグループホームとの勉強会や研修を共に行うことで交流を持ち、情報交換ができるよう、これからも取組んでいきたい。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員の普段の様子を気に掛け、悩みや不安などがないか話しをする機会を作っている。休憩時間を作り少しの時間でも一息付き、気分転換ができるような場も作っている。また、親睦会や忘年会などを開き、他の職員との交流を図りながら、ストレスが軽減できるように取り組んでいる。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>研修や講習会の情報を伝え、学ぶことの大切さを個々が感じ取れるよう呼び掛け、向上心が持てるよう努めている。また、直接現場に顔を出し、利用者や職員の様子を気に掛けるようにしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所前に自宅や病院・入居施設などを訪問し、直接本人と話しをしながら不安なことや心配なこと・困っていることなどを十分に聞き、受け止めるよう努めている。また、そうすることで入居時にはある程度顔見知りの関係が作れ、今後の信頼関係を深めていけるきっかけに繋がるため、可能な限りそのような関りを続けていきたい。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前から、その利用者のみならず、家族が困っていること・不安なことにも十分に耳を傾けながら、家族の考えや置かれている背景などを引き出し、受け止めていけるよう努力している。また、今後は家族で抱え込まず、その都度相談をしながら一緒に関わりを持ち続けていきたいことを、伝えている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者にとってどんな支援が必要なのかを、利用者・家族からの情報や聞き取り、また状況を見極め、その利用者に合ったサービスが提供できるように取り組んでいる。場合によっては、他の事業所との連携を図り、必要なサービスが提供できるように努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前にグループホームの見学を行ったり、また事前に訪問を重ねることで少しでも顔馴染みの関係が築け、入居後も比較的落ち着いた過ごせることが多いので、家族と相談をしながら利用者の不安を軽減するための努力をしていきたい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一方的な関わりにならないよう、利用者の言葉や表情・行動などにも目を配りながら、職員も一緒に生活を送っている。また、利用者から昔の歌や苦労話・料理の味付けなどを教えていただく場面作りも行っている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族からも介護を通じての苦労話や、悩み・入居前のエピソードなどを伺い、こちらからも情報を提供すると共にその利用者の状況を共有している。そして、家族も含め、一緒に利用者を支えていける関係を築いていけるように、これからも努力していきたい。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会や外出・外泊に特に取り決めはなく、自由に好きなときに、家族との時間を過ごしている。以前住んでいた場所に帰省したり、年末年始やお盆などには家族と共に過ごすことがある。また、必要に応じて車椅子の貸し出しも行っている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの友人や知人の面会があったり、年賀状のやり取りが続いている。また、昔利用していた美容院に出掛け懐かしんだり、家族と共に墓参りに出掛けるなど、今まで大切にしてきた場所との関りを続けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事の際、下膳をお手伝いしたり、体調の優れない利用者を気遣ったり利用者同士お互いに気に掛け、助け合う場面が見られている。利用者の状態や場面に応じて、職員がさり気なく介入したり、また時には見守りをしながら、顔馴染みの関係をこれからも大切にし、利用者の自主性を引き出していきたい。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	来所持、または電話での対応時にも、相談を受けたり、また必要に応じ、情報を提供する姿勢を保ち、継続的な関りを大切にしている。また、利用者が退居された後にも、行事のボランティアとして関わりが続いている家族もあり、これからもその繋がりを大切にしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に利用者や家族から希望などを伺い情報収集を行うが、入居後にも関わりの中から利用者の真意を探る努力を続けている。また、ケアプランの説明時にも家族から本人の今までの暮らしぶりや気になることなどを伺い、その後の関わりに繋げるよう取り組んでいる。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者や家族からの聞き取りを行うと共に、個別のシートを用い本人や家族に記載をお願いしている。強制はせずに、できる範囲での記載ではあるが、それを利用者を知るための関わりのかっかけと捉え、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日新聞に目を通す・好きなテレビ番組を観る・お風呂に毎日入るなど、自宅に居るときからの習慣を続けていく中で、普段の様子と変わりはないか・一日の生活の流れなど、本人の様子を見守りながら、把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者本人が、より良い生活が送れるよう、職員間の話し合いを行うと同時に、家族からの要望なども取り入れて、ケアプランの作成を行っている。また、毎月プラン内容の説明を行い、承諾を得てから家族の署名をいただいている。遠方の方など、その月の面会が難しい場合には、毎月の近況報告の手紙に同封をし、返信用封筒にて署名後、返送していただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月ケアプランの見直しを行っており、利用者の状態に応じてその都度話し合いを行っている。利用者の状況にあわせて柔軟な対応ができるよう、日々の情報収集や職員間、また、家族との情報交換を行い、現状に沿ったケアプランを立案するように取り組んでいる。		
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	普段の様子を気に掛けながら気付いたこと・変化が見られたこと・新たな発見などを細かく記録に残すことで、話し合いをしながらケアプランに落とし込んでいる。また、個別の記録の他に“連絡ノート”を活用し、その中にも関わりの中から知り得た利用者の情報を記載し、関わる職員が共通の情報を持ちながら対応ができるように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族からの急な外泊や、外出にもその都度対応をしている。また、遠方からの家族の訪問時には、希望に応じて宿泊ができる部屋の提供を行ったり、今後の状況を見ながら、ショートステイの利用も検討しており、できるだけ利用者や家族の希望に沿うことができるように、取り組んでいきたい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して地域で生活できるように、町内会や民生委員との意見交換を行っている。	○	近所に独居老人がおり、民生委員との情報交換を行い、安否確認を行い、冬には雪かきなどを行っている。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	今後必要時には、十分に検討を行った上で積極的に取り入れて支援をしていきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議や勉強会にて、権利擁護や成年後見人制度を学ぶと共に、情報交換を行いながら、地域包括支援センターと協力関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前からのかかりつけ病院に継続して通院することで、病状の変化や普段の様子・相談などがしやすかったり、24時間受け入れ体制が整っている。また、新規で受診する際にも、家族に相談をし、可能であれば状況に応じて受診に同行することもある。そうすることで、家族が気になっていることも相談でき、情報の共有に繋がっている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の詳しい症状や対応などについて、相談ができる専門医がおり、関わりのアドバイスをもらうことで、その後の対応に繋がっている。また、出来る限り家族も同行することで、本人のみならず家族の安心にも繋がったり、疑問に思う点はその場で専門医に確認をし納得した上で治療が開始されている。その理解があることで、普段の生活状況も見えやすく、家族の協力が得られやすいことがある。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週に2回、医師・看護師の往診があり、利用者の状態の報告や相談ができる体制がある。また、往診の他にも電話での相談を行ったり、24時間、医師に連絡・相談をすることができる。往診時、個別の“健康管理記録”でのやりとりもあり、記録として残している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者の入院中、病院に出向き状態を目で見て確認をし、また病棟の看護師から情報収集を行っている。利用者の状態を踏まえた上で、早期に退院ができるよう家族も含め、入院先の医師・看護師と相談をし、働きかけを行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	利用者や家族・職員の不安や疑問を軽減するため、かかりつけ医や往診医・看護師とのやり取りを積極的に行っていききたい。その利用者にとって、どのように過ごすことが望ましいのかなどの話し合いを重ね、その結果を往診医・看護師に報告・相談しながら緊急時の対応に備えている。	○	重度化や看取りについて意思の確認が出来る書類を作成し、意思や看護師・家族と連携しながら取り組んでいきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	普段から、医師・看護師との連携を密にとり、終末期を迎える利用者に対しての関わりについて話し合う場面を作っている。また、今後の状況により医療機関のみならず、本人・家族・職員を含めての話し合いを利用者主体で検討ができるよう進めていきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人の意向を踏まえた上で、それまでの生活状況などの情報を、家族や新たなケア関係者に報告や情報交換をし、利用者の混乱を最小限度に留めるよう、十分な配慮を行っている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>トイレ誘導時には、配慮をしながらさりげなく声掛けや、誘導を行っている。個人情報の取り扱いについては、個人の記録物はホーム外に持ち出さず、また、破棄する際にはシュレッターを使用するようにしている。研修会や事例検討会では、利用者の個人名などは伏せて対応すると共に、事前に家族の承諾を得るようにしている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者一人ひとりに合わせ、意思を引き出しやすい声掛けを行い、利用者が自身で選ぶことができる環境と雰囲気を作るよう心掛けている。どの洋服を着たいか・何を食べたいか・どこに行きたいかなどを利用者から引き出し、献立に取り入れたり、外出したりしている。これからも、このような関りを大切にしていきたい。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者の希望を踏まえ、その人らしく過ごすことができるよう、日々の関わりの中から信頼関係を築き、楽しみを持ちながら生活ができるよう関わっている。毎日お風呂に入りたい・朝、起きるのはゆっくりしたいなど、利用者のペースに沿いながら、これからも支援していきたい。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>利用者一人ひとりに合わせて、近所の床屋や、行きつけの美容院に出かける機会を作っている。また、希望により訪問美容を活用している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の食べたいものを献立に取り入れたり、季節に応じた取り入れるなど、工夫しながら食事が提供できるよう心掛けている。また、後片付けを一緒に行ったり、味見をして下さる場面を作り、会話をしながら楽しみとなるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	体調や病歴にも配慮をしながら、楽しみを持って好きな飲み物を飲んだり、おやつを召し上がっている。必要時にはその都度往診医に相談をし、利用者の習慣も取り入れながら、一人ひとりの状況に合わせた対応ができるよう、これからも努力していきたい。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用し、個々の状況を把握しながらできるだけトイレでの排泄ができるよう取り組んでいる。利用者のサインや表情・行動などを見逃さず、さりげなく誘導を行っている。また、排泄時、腹部マッサージを行ったり、毎日牛乳やヤクルトを勧め、気持ちよくトイレでの排泄ができるよう、これからも支援を続けていきたい。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日や時間は利用者の希望にできるだけ浴うように心掛けている。お風呂は、毎日沸かしており、いつでも入浴が出来るようにしている。また、すすんで入浴する事が難しい利用者には、同姓の職員で関ったり、入浴剤を使用し、楽しみを持って入浴ができるように、働きかけを行っている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者それぞれの生活習慣を把握し、その方」に合った休息が取れるよう、支援を行っている。夜中、目が覚めた利用者に対しては、それが空腹や排泄のサインである場合があるので、状況に応じて温かい飲み物を勧めたり、トイレへの誘導を行ったり、利用者のその時の様子を見極めて関るようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの出来そうなこと・やってみたいことなどを、関わりの中から探り、利用者の意思を引き出すように接することを心掛けている。利用者の力が発揮できるよう支援を行い、感謝の言葉を忘れずに対応を行っている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者一人ひとりの現金の扱いに関する状況を把握しており、個人で所持される方もいる。利用者の意思を尊重しながら、できることは見守りに関わり、必要に応じて介入を行うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	普段の関わりの中から、どこへ出掛けてみたいかななどの話を引き出し、状況に応じて個別に出かける機会を作ったり、他の利用者も交えながら生活を共に過ごしている方同士、楽しみを共有できるよう、これからも関わりを大切にしていきたい。	○	買物や外出などの他、散歩や外の空気に当たる機会などを、今後も増やしていきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事として家族にも呼びかけを行い、一緒に外出を楽しむと共に、家族と過ごす時間も大切にしていきたい。また、同じ時間を過ごす事で、職員や家族同士の交流にも繋がっていることから、これからも積極的にそのような機会を作っていきたい。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が自ら好きな時に家族や友人に電話を掛けている場面があり、その繋がりを大切にしている。また、母の日や誕生日などで贈り物が届いたときには、お礼の電話を繋げやりとりを支援するように働きかけている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間などの取り決めを設けていないため、いつでも気軽に訪問が出来る体制が整っている。また、面会時には、職員でお茶を差し入れており、好きな場所で大切な方との時間をゆっくり過ごせるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会に参加したり、資料を読むことで、職員が共通の認識を持ち、身体拘束はなぜ行ってはならないかの意味も理解したうえでケアに取り組むように心掛けている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵を掛けることで予測されることを職員が理解した上で、ケアに携わっている。利用者の習慣や普段の様子などを日々気に掛けて接するよう努め、外に出たいサインや行動が見られた時には、さりげなく声を掛け、安全に外との行き来が出来るよう、付き添いを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者と同じ場所で、さりげなく記録など行いながら、状況を把握するよう努めている。夜間は巡回を行い、利用者の安否確認を行っている。また、安全を確保する為に内玄関に“センサー”を設置しているが、そのセンサーを過信せずに職員が目でも確認もしている。ひとりでふらりと外へ行かれる可能性のある利用者には、事前に家族の承諾を得た上で、各ユニットに顔写真と特徴を記載したものを配布し、また毎日その日の服装をチェックしており、万が一に備えて協力を仰ぐようにしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の前から全て取り除いてしまうのではなく、安全に使うことは出来るか・認識は出来ているかなどの、日々の状況を把握した上で、使用時には傍で見守りを行うなどの対応をしている。自身で髭を剃ったり、果物の皮を剥くことができる利用者もいるため、そういった、今出来ていることを大切にしながら、利用者の状態を見極め、これからも関わるようにしていきたい。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故が起きた時に予測されることを職員が理解しており、未然にそれを防ぐ為の関わりを日々、重ねている。事故が発生した時には、速やかに報告書を作成しカンファレンスなどで、事故が起きた原因や今後の対応などについて話し合い、職員が共通の認識の元、その後のケアに携わるようにしている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時対応の勉強会を定期的に行い、理解を深めるよう努めている。また、年2回、消防署の方を招いて、心肺蘇生や避難訓練を実施し、職員が学ぶ機会を作り、いざという時に対応ができるように、取り組んでいる。また、緊急時のマニュアルや利用者の病歴・内服薬などがひと目で分かるファイルを作成し、急変時などに備えている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消火器や避難経路の確保などの点検を、定期的実施しており、利用者が安全に避難できる方法を身につけるよう、取り組んでいる。町内の方にも呼びかけを行い、地域との結びつきも大切にしている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	起こり得るリスクについての説明を具体的に行う中で、家族からの理解を得るため、普段の様子をありのままに伝えている。帰りたい気持ちが強いときなどには、事前に家族の了解を得た上で、電話にて協力を仰ぐこともある。利用者の行動を抑制するのではなく、寄り添いながら、柔軟な対応ができるよう、これからも家族の協力の元、努力をしていきたい。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	利用者の日常生活の中から、普段との変化を見逃さず、細かく記録に残し、情報を職員間で共有している。異変の発見時や気になる事などは、往診時に相談したり医療機関に連絡を取り、速やかに対応ができるように努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人個人の内服薬の効力・副作用などの理解に努めている。また状況に応じて、内服後の状態の観察を行い、記録に残すようにしている。利用者の状況に合わせて、内服薬の相談を往診時に行っている。内服時には、薬の袋に記入してある、日付け・名前・食前後の確認を、2名の職員で行い、利用者到手渡した後も、きちんと内服が出来たか、さりげなく傍で見守りをしている。また、空袋はすぐには捨てずに、飲み忘れがない様、職員が最終チェックを一通り行ってから、空袋を捨てるようにし、何人もの職員が目を確認を重ねている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食事の際、食物繊維を含む食材を取り入れたり、便秘の予防の為、毎日牛乳やヤクルトなどを勧めている。また、毎日体操を行ったり適度に身体を動かす機会を作るように心掛け手いる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	誤嚥を未然に防ぐ為にも、食後の歯磨きが必要なことを職員が理解しており、促しや介助を行っている。また、利用者の状態に合わせ、柔らかめの歯ブラシなどを使用したり、また、義歯を装着している方には、就寝前に義歯洗浄剤を使用し、口腔内が清潔に保てるようにしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立を作る際、食事のバランスを考えながら立てると共に、利用者の好きなものも取り入れながら、楽しみを持って食事が取れるよう努めている。定期的に栄養士から献立についてのアドバイスもあり、今後の参考となっている。利用者の状態により食事・水分量のチェックを行っており、現状を把握しながら必要により、代替のものや補食を取り入れている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成しており、予防や対応の仕方を職員に周知している。札幌市からの通達事項は各ユニットに配布し、職員が目を通し理解を深めるよう努めている。また毎年、利用者・職員ともに、インフルエンザの予防接種を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎食後、布巾・まな板・三角コーナーの漂白を行っている。食事の前後には、塩素系漂白剤を薄めたものを、スプレーし、テーブルなどを拭いている。調理の際には賞味期限なども気に掛け、新鮮な食材で調理を行うようにしている。また、温かいものは、直前に火を通し、美味しい状態で食べることが出来るように配慮をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	花壇やプランターに花を植えたり、また、傍らにベンチを置きゆっくりくつろげる場所があり、気軽に立ち寄ることが出来る雰囲気作りを心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日差しが強い時には、カーテンやすだれを掛けたり、また、テレビは誰も見れいなければ、スイッチを消している。装飾品などは、その季節にあったものを意識し、目で見て季節を感じられるように配慮をしている。また、思い出の写真や、利用者の撮った写真・習字などの作品を飾っており、足を止めてそれらを眺めている利用者や家族の姿も見られている。今後も季節感や生活感を取り入れながら、利用者が居心地よく感じられる環境を、作っていききたい。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間にはソファを置き、その他にも各所にソファや椅子を置くことで、人の気配を感じつつもひとりで過ごせる空間を作っている。ソファで横になって居眠りをしたり、ユニットから少し離れた場所で、外を眺めながら、椅子に腰掛け、思い思いの時間を過ごす場面もある。これからも利用者がゆっくりくつろげる場所を確保していききたい。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に利用者の使い慣れたものや、馴染みのものを持ち込み、今までの習慣を大切にしながら、利用者が安心し、居心地よく過ごせるよう努めていききたい。家族の写真や仏壇を持ち込んでいる方もおり、個別に応じた環境作りをこれからも大切にしていきたい。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	季節やその日の天気や気温などを気に掛け、換気・暖房の設定温度の調整などを行っている。また、冬季には加湿器を設置し湿度の調整を行い乾燥を防いでいる。トイレや浴室などの換気扇は常に作動させ、においがこもらないように気を配っている。	○	臭いなどに配慮し、換気を行ったり、環境整備に取り組んでいる。必要に応じ、空気清浄機などを活用していききたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや廊下には手すりが付いており、利用者が使いやすい高さ・握りやすさで設置されている。車椅子の生活でも支障がないように、ホーム内は段差がない造りになっている。また、エレベーターと階段があり利用者の状態に合わせ対応ができるよう工夫をしている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者の事前の情報を参考にしながら、関わりの糸口を探り、利用者の認識の度合いを把握するようにしている。居室などの場所の迷いが見られる方には、事前に相談をした上で、居室前に表札や、写真・目印となる物を飾るなどの工夫をしている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇の花の手入れや畑の作物の収穫を行い、利用者の力が発揮できる場面がある。また、玄関先で日向ぼっこをし、通りかかった方と挨拶を交わすこともある。夏には、花火を行い夕涼みをする事もあり、利用者が活躍できたり、楽しみを持って生活が送れるよう日々、努力をしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	○
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	○
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	○
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	○
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	○
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	○
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	○
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	○
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	○

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p style="text-align: center;">○</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: center;">○</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: center;">○</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: center;">○</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)